

令和5年度  
視能訓練士学科  
シラバス

西日本教育医療専門学校

第1学年

令和5年度入学生カリキュラム

区分	授 業 内 容	履修時数				履修 単位
		1年	2年	3年	計	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活					
	心理学	30			30	2
	文書表現	30			30	2
	生物学	30			30	2
	物理学	30			30	2
	数学・統計学	30			30	2
	英語	30			30	2
	保健体育	30			30	2
	情報処理 I	30			30	2
情報処理 II	30			30	2	
専門基礎分野	(1) 人体の構造と機能及び心身の発達					
	解剖学	30			30	2
	生理学	30			30	2
	臨床心理学	30			30	2
	保育学 I	15			15	1
	保育学 II	15			15	1
	(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	病理学		15		15	1
	眼科薬理学		30		30	1
	内科学		15		15	1
	神経内科学		15		15	1
	小児科学		15		15	1
	精神医学		15		15	1
	公衆衛生学		15		15	1
	看護学	20			20	1
	(3) 視覚機能の基礎と検査機器					
	視器の解剖・生理学	30			30	1
	視覚生理学	30			30	1
	眼科総合医療論		30		30	1
	眼科臨床検査学		60		60	2
	総合視能学			120	120	4
	(4) 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念					
	医療関係法規と医療倫理		30		30	1
社会福祉	15			15	1	
医学概論	15			15	1	
眼科リハビリテーション	30			30	2	
専門分野	(1) 基礎視能矯正学					
	生理光学 I	30			30	1
	生理光学 II	30			30	1
	生理光学実習 I		30		30	1
	生理光学実習 II		60		60	2
	基礎視能矯正学 I	60			60	2
	基礎視能矯正学 II	60			60	2
	基礎視能矯正学 III	60			60	2
	視能矯正学研究法			60	60	2
	(2) 視能検査学					
	視能検査学 I	60			60	2
	視能検査学 II	60			60	2
	視能検査学 III		60		60	2
	視能検査学 IV		60		60	2
	視能検査学 V		60		60	2
	(3) 視能障害学					
	眼疾病学	30			30	1
	神経眼科		30		30	1
	弱視各論		15		15	1
	斜視各論		60		60	2
	眼振各論		15		15	1
	(4) 視能訓練学					
	視能訓練学実習		60		60	2
	視能訓練学 I		60		60	2
	視能訓練学 II		60		60	2
	視能訓練学 III		60		60	2
	ロービジョン学		30		30	2
(5) 臨地実習						
臨地実習			630	630	14	
各学年年間合計		920	900	810	2630	101
合計						

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	心理学		担当講師	三浦 佑子		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	図説心理学入門：斎藤勇編 誠信書房					
学習目標	身近な心理学的現象や基礎的な知識を通していろいろな心理学の領域を知る。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%) に出席状況 (20%) を加味し、80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	心理学とは何か、その成り立ちと領域について理解する					
第 2 回	知覚と認知の領域から物の見え方、見方の心理について学ぶ					
第 3 回	人間の「欲求」の種類や動機づけ、行動や葛藤について学ぶ					
第 4 回	感情とは何か、そのはたらきや心理について学ぶ					
第 5 回	「学習」により、思考や行動がどのように変化し、獲得していくのかを学ぶ					
第 6 回	「記憶」と「忘却」の心理について、事例を通して学ぶ					
第 7 回	「発達」とは何か、その概念と様相について学ぶ					
第 8 回	「発達」と「教育」に関わる問題について事例を通して学ぶ					
第 9 回	人間の心の問題について、その現象や種類を学ぶ					
第 10 回	「性格」とは何かについて自分や他者の行動から考察する					
第 11 回	人間関係の心理について、事例を通して学ぶ					
第 12 回	脳と生理心理学から心とからだの関係について学ぶ					
第 13 回	臨床心理学とは何か、その特性を事例を通して学ぶ					
第 14 回	いろいろな心理療法について学び、心のケアへの活かし方を考察する					
第 15 回	講義のまとめと考察：心理学の学びを通して自分自身を振り返る					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	文書表現			担当講師	古江 伸一郎	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布プリント等					
学習目標	論理的思考を意識し、相手に理解されるような自己の主張を表現する技能を身につける姿勢を学ぶ。また、表現力や論理的な文章力を養い、小論文等で活用できる表現技術を高める					
成績評価の 方法と基準	授業に取り組む姿勢を加味し、終講時試験により、80点以上を優、70点以上良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	コミュニケーション力を育てるため、自己紹介・自己アピールを行う。					
第2回	文章表現学の概論を行う。					
第3回	自分のことを、どう他人に知ってもらおうのかを文章に表す。					
第4回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第5回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第6回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第7回	「個人史」を作成し、自分のこれまでの人生について考える。					
第8回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第9回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第10回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第11回	「将来の自己」について想起し、文章にまとめる。					
第12回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					
第13回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					
第14回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					
第15回	「自己と社会のつながり」について論考し、文章にまとめる。					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	生物学		担当講師	浦 健司		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義 教科書を中心にプリントを用いて理解を深める。					
使用教科書・ 使用教材	看護・医療系 学生のための 生物学講義					
学習目標	生物の生態、機能、構造を、主に動物を中心に理解する。 その上で、ヒトにおける正常な生理機能、または機能不全による様々な疾患を理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%) に出席状況 (20%) を加味し、80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	細胞と器官		(細胞の構造と働き)			
第 2 回	(細胞の浸透現象,動物の組織と器官)					
第 3 回	物質交代とエネルギー		(酵素の特性と種類)			
第 4 回	(動物の栄養と消化,動物体内の物質移動)					
第 5 回	(動物体内でのガス交換,酸素呼吸,ATPとエネルギー)					
第 6 回	(筋肉の構造と働き)					
第 7 回	動物の恒常性と調節		(恒常性の維持,血液の循環)			
第 8 回	(血液型,血液凝固のしくみ,抗原抗体反応)					
第 9 回	(老廃物の排出,内分泌腺とホルモン,自律神経と働き)					
第 10 回	(血糖値の調節,糖尿病)					
第 11 回	神経系とその働き		(神経系のしくみ,神経の構造と伝達)			
第 12 回	(受容体と作動体,光による刺激)					
第 13 回	遺伝の法則		(メンデルの遺伝の法則,一遺伝子雑種)			
第 14 回	遺伝子と染色体と変異		(性決定,伴性遺伝)			
第 15 回	テスト対策		(問題練習)			

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	物理学			担当講師	戸田 善人	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義 教科書とプリント教材 (要点整理) を中心に講義を行う。					
使用教科書・ 使用教材	まるわかり! 基礎物理 (南山堂出版)					
学習目標	物理の基礎となる力学を理解し。熱力学・波動・電磁気・原子分野の基礎的知識を学ぶ。特に波動では、光学についての理解を深める。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%) に出席状況 (20%) を加味し、80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	物理を理解するための道具とルール (物理で使う数字・文字、数学)					
第 2 回	力学の基本 (等速直線運動、加速度運動、落下運動)					
第 3 回	物体の運動と力の関係 (力の表し方と式の使い方、身のまわりの力)					
第 4 回	圧力のはたらきと物を回転させる力 (身のまわりの圧力とつりあいの状態)					
第 5 回	エネルギーとその保存則 (力の効果、いろいろなエネルギー、保存とその利用)					
第 6 回	運動量と視点の違いにより感じる力 (運動量、相対速度、慣性力)					
第 7 回	気体分子の運動と熱エネルギー (熱の性質、気体が周囲におよぼす力)					
第 8 回	波の性質とその表し方 (波の表し方と2種類の波、グラフと式、縦波と横波)					
第 9 回	波ならではの現象、波の性質、反射の法則、定常波、波の回折、波の干渉					
第 10 回	波で理解する音と光の現象 (音の性質と音程、音波の媒質、伝わる速さ、高低)					
第 11 回	波としての光の性質、光の色と波長、干渉、屈折率、屈折と反射、全反射					
第 12 回	光の屈折とレンズの利用、凸レンズ、凹レンズ、光の散乱					
第 13 回	静電気の力とその表し方 (電気の力の表し方、電荷が受ける力とエネルギー)					
第 14 回	原子の構造と半導体・放射線 (原子の構造と表し方、半導体、放射線の性質)					
第 15 回	総復習とテスト対策 (問題演習)					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	数学・統計学		担当講師	竹内 誠之		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・ 使用教材	配布資料					
学習目標	高校までの復習を行い、十分な計算能力を身につける。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	高校までの復習テスト					
第2回	高校まで復習					
第3回	高校までの復習					
第4回	連立一次方程式を理解する					
第5回	因数分解を理解する					
第6回	2次方程式を理解する					
第7回	三角比を理解する					
第8回	指数の表現を理解する					
第9回	単位の換算					
第10回	対数を理解する					
第11回	指数と対数の計算ができる					
第12回	数の統計的取扱い					
第13回	統計分布Ⅰ					
第14回	統計分布Ⅱ					
第15回	総括					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科			科目区分	基礎分野	
科目名	英語			担当講師	三浦 弘文	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	なし					
学習目標	英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、医療現場で必要な英語表現を運用できる力を身につける。					
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学 習 内 容					
第 1 回	Chapter 1.英語の文法(動詞、形容詞、副詞)について理解を図り、活用する。					
第 2 回	Chapter 1.英語の文法(比較、代名詞、疑問詞)について理解を図り、活用する。					
第 3 回	Chapter 1.英語の文法(進行形、完了形、受動態)について理解を図り、活用する。					
第 4 回	Chapter 2.英語の基礎構文(5文型)について理解を図り、活用する。					
第 5 回	Chapter 2.英語の基礎構文(修飾語句)について理解を図り、活用する。					
第 6 回	Chapter 2.英語の基礎構文(接続詞、仮定法)について理解を図り、活用する。					
第 7 回	Chapter 3.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 8 回	Chapter 3.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 9 回	Chapter 3.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 10 回	Chapter 4.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 11 回	Chapter 4.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 12 回	Chapter 4.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 13 回	Chapter 5.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 14 回	Chapter 5.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第 15 回	Chapter 5.医療現場でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					



## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	保健体育		担当講師	山 部 優香里		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	無 ※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もある。					
学習目標	①生涯にわたってスポーツ・運動を自ら実践することができる能力を身につける。 ②スポーツ・運動を通して健康の維持増進に努めることができるようになる。 ③各スポーツのゲームやスポーツ大会の企画運営ができるようになる。					
成績評価の 方法と基準	①評価の観点 授業態度 (30%)、授業貢献度 (30%)、運動技能 (20%)、レポート (20%) で行う。 ②評価は4段階で行う。 80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	オリエンテーション 体ほぐし運動					
第2回	軽スポーツ					
第3回	軽スポーツ					
第4回	選択スポーツ1 (バドミントン、バレーボール、バスケットボールの基本)					
第5回	選択スポーツ2 (バドミントン、バレーボール、バスケットボールの応用①)					
第6回	選択スポーツ3 (バドミントン、バレーボール、バスケットボールの応用②)					
第7回	選択スポーツ4 (バドミントン、バレーボール、バスケットボールのゲーム①)					
第8回	選択スポーツ5 (バドミントン、バレーボール、バスケットボールのゲーム②)					
第9回	選択スポーツ6 (サッカー、ドッジボールの基礎)					
第10回	選択スポーツ7 (サッカー、ドッジボールの応用①)					
第11回	選択スポーツ8 (サッカー、ドッジボールの応用②)					
第12回	選択スポーツ9 (サッカー、ドッジボールのゲーム①)					
第13回	選択スポーツ10 (サッカー、ドッジボールのゲーム②)					
第14回	チーム対抗スポーツ大会①					
第15回	チーム対抗スポーツ大会②・まとめ					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	情報処理Ⅰ		担当講師	木下 幹朗		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	パソコンの基礎操作と実践的な操作ができる 文書作成、表作成作成ができる より実践的な文書作成や資料作成ができる					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	パソコンの環境設定、使用するデータの配布、タイピング練習、ファイル操作、フォルダ操作					
第2回	タイピング練習、文書作成（文章入力、文字書式、段落書式）					
第3回	タイピング練習、文書作成（画像の挿入、図形の挿入）					
第4回	タイピング練習、文書作成（見た目のバランスを整えたレイアウト編集）					
第5回	タイピング練習、表計算（表作成、罫線編集）					
第6回	タイピング練習、表計算（四則演算、基本関数）					
第7回	タイピング練習、表計算（四則演算、基本関数）					
第8回	タイピング練習、表計算（グラフの作成・編集）					
第9回	タイピング練習、表計算（グラフの作成・編集）					
第10回	タイピング練習、プレゼンテーション資料作成（基本操作、アニメーション効果）					
第11回	プレゼンテーション資料作成（指定の課題に沿った資料作成）					
第12回	プレゼンテーション資料作成（指定の課題に沿った資料作成）					
第13回	プレゼンテーション資料作成（発表）					
第14回	タイピング練習、総まとめ（文書作成、表計算）					
第15回	タイピング練習、総まとめ（文書作成、表計算）					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	基礎分野		
科目名	情報処理 II		担当講師	木下 幹朗		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	パソコンの基礎操作と実践的な操作ができる 文書作成、表作成作成ができる より実践的な文書作成や資料作成ができる					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	タイピング練習、文書作成 (SmartArt)					
第2回	タイピング練習、文書作成 (差し込み文書)					
第3回	タイピング練習、文書作成 (ビジネス文書課題作成)					
第4回	タイピング練習、文書作成 (ビジネス文書課題作成)					
第5回	タイピング練習、表計算 (表の作成、相対参照、絶対参照)					
第6回	タイピング練習、表計算 (基本関数、応用関数)					
第7回	タイピング練習、表計算 (基本関数、応用関数)					
第8回	タイピング練習、表計算 (グループ作業に効果的な機能)					
第9回	タイピング練習、表計算 (統計作業)					
第10回	タイピング練習、プレゼンテーション資料作成 (表現力を上げるデザイン)					
第11回	タイピング練習、プレゼンテーション資料作成 (表現力を上げるデザイン)					
第12回	情報セキュリティとマネジメントについて					
第13回	情報セキュリティとマネジメントについて					
第14回	タイピング練習、総まとめ (文書作成、表計算)					
第15回	タイピング練習、総まとめ (文書作成、表計算)					

## 令和 5 年度講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	解剖学			担当講師	富澤 一仁	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、医学書院					
学習目標	視能訓練士として必要な人体の構造に関する知識を学び、その上で疾患や障害を理解する。					
成績評価の 方法と基準	期末試験のみで80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	細胞の構造 細胞の構造、細胞内小器官の構造を知る					
第2回	運動器（骨） 骨格の構造と仕組みを理解する					
第3回	運動器（筋肉） 骨格筋の構造と機能を理解する					
第4回	神経系（1） 脳、脊髄の構造と機能を理解する					
第5回	神経系（2） 大脳辺縁系の構造と機能を理解する					
第6回	循環器 心臓、血管の構造を理解する					
第7回	呼吸器 肺の構造を理解する					
第8回	消化器 食道、胃、腸の構造を理解する					
第9回	肝臓、膵臓、胆嚢 肝臓、膵臓ならびに胆嚢の構造を理解する					
第10回	腎臓 腎臓、膀胱の構造を理解する					
第11回	男性生殖器 男性生殖器の解剖と機能を理解する					
第12回	女性生殖器 女性生殖器の解剖と機能を理解する					
第13回	感覚器（1） 聴覚器の構造と機能を理解する					
第14回	感覚器（2） 味覚器と嗅覚器の構造と機能を理解する					
第15回	まとめ これまで学んだことについて、国試問題などで再確認する					

## 令和 5 年度講義計画（シラバス）

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	生理学		担当講師	富澤 一仁		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、医学書院					
学習目標	視能訓練士として必要な人体の正常な生理機能を学び、その上で疾患や障害を理解する。					
成績評価の 方法と基準	期末試験で80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	恒常性維持機構	生体の恒常性維持機構を理解する。				
第2回	細胞の興奮と様々な組織	細胞の電気的興奮と人体を構成する各組織の機能を理解する				
第3回	体液・血液	体液・血液の組成を理解する				
第4回	血液の機能	酸素運搬、血液凝固機能、血液型を理解する				
第5回	生体の防御機構	生体の防御機構のしくみを理解する				
第6回	循環器	血液循環機能を理解する				
第7回	呼吸器	呼吸の仕組みを理解する				
第8回	消化器	栄養の消化、吸収の仕組みを理解する				
第9回	肝臓、膵臓、胆嚢	エネルギー・薬物代謝、血糖調節の仕組みを理解する				
第10回	腎臓	尿の生成と排出の仕組みを理解する				
第11回	ホルモン（1）	視床下部ホルモン、下垂体ホルモンの機能を理解する				
第12回	ホルモン（2）	甲状腺ホルモン、副腎ホルモンの機能を理解する				
第13回	妊娠・出産	妊娠・出産の機構、胎盤の機能を理解する				
第14回	感覚器（3）	視覚器の構造と機能を理解する				
第15回	まとめ	これまで学んだことについて、国試問題などで再確認する				

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	臨床心理学		担当講師	三浦 佑子		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	絶対役立つ臨床心理学 藤田哲也監修 串崎真志編著 ミネルヴァ書房					
学習目標	臨床心理学の知見を通して、現代社会における心理的な問題への対応や支援のあり方について考察する					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	臨床心理学について学ぶ意味を理解する					
第2回	パーソナリティの理解—個人差に注目する					
第3回	うつ病と抑うつ障害—ストレス社会を生きる					
第4回	不安症—恐れる気持ちとつきあう					
第5回	統合失調症—普遍的な心の病					
第6回	心的外傷後ストレス障害 (PTSD) —癒しがたい心の傷					
第7回	発達障害—自閉症の理解と支援					
第8回	臨床心理学の理論と方法の歴史—心に対するさまざまな考え方					
第9回	精神分析—自分を深く見つめる					
第10回	認知行動療法—エビデンスにもとづくアプローチ					
第11回	人間性心理学—自分らしく生きる					
第12回	ナラティブ・アプローチ—心とセラピーを問い直す					
第13回	神経科学と生理心理学—心の生物学的基礎					
第14回	心理アセスメント—専門家による心の見立て					
第15回	講義のまとめと振り返り					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	保育学Ⅰ		担当講師	三浦 佑子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	現代の子どもを取り巻く環境を考察し、子どもの育ちへの総合的な理解を図る。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもについて学ぶことの意味について					
第2回	子どもと発達について—発達心理学の位置づけから考える					
第3回	子どもの健康と成長について					
第4回	養育環境と子ども—愛着とその障害について					
第5回	記憶と子ども—子どもの頃の思い出について					
第6回	子どもの成長と自然とのかかわりについて					
第7回	子どもの社会的スキルと仲間関係について					
第8回	子どもを取り巻く環境の問題と子育ての支援について					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	保育学Ⅱ		担当講師	三浦 佑子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	現代における子どもの発達課題と支援のあり方について学ぶ					
成績評価の 方法と基準	筆記試験(80%)に出席状況(20%)を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもの権利と人権について					
第2回	乳幼児期の発達課題と特徴を理解した対応について					
第3回	児童期・思春期の発達課題と特徴を理解した対応について					
第4回	子どもの健康と障害及びその支援方法について					
第5回	子どもの表現(遊び)の理解と支援について					
第6回	多様な子どもの保育や支援方法について					
第7回	現代の子育てと支援とその課題について					
第8回	講義のまとめと振り返り					



## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	看護学		担当講師	大石 一美		
対象学年	1 年	履修時数	20 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義演習					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 基礎看護技術 II					
学習目標	医療の基本を学び、清潔・不潔の概念を理解し、チーム医療の一員であることを理解する。					
成績評価の 方法と基準	平常点 (10%) と筆記試験 (90%) を合わせ、80 点以上が優、70 点以上が良、60 点以上が可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	医療従事者としての心構えを学ぶ					
第 2 回	看護技術の基本原則					
第 3 回	バイタルサインの観察 (講義)					
第 4 回	バイタルサインの観察 (演習)					
第 5 回	基本的活動の援助 (講義)					
第 6 回	基本的活動の援助 (演習)					
第 7 回	コミュニケーション					
第 8 回	救命、救急処置技術					
第 9 回	胸骨圧迫と AED の使い方 (演習)					
第 10 回	点眼の技術、感染防止の技術 (講義、演習)					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	視器の解剖・生理学		担当講師	内田 昌樹 ・河崎 栄二		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務経験がある。眼科一般視機能検査に従事していた経験から、眼球の解剖および生理機能について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	視能学,現代の眼科学					
学習目標	疾患理解の為の基礎的な眼球及び眼球付属器の解剖が説明できる					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	眼球の解剖を学ぶ					
第2回	外膜の解剖を学ぶ					
第3回	中膜の解剖を学ぶ					
第4回	水晶体について学ぶ					
第5回	網膜について学ぶ					
第6回	硝子体・水晶体について学ぶ					
第7回	眼球付属器の解剖を学ぶ					
第8回	眼球血管系を学ぶ。					
第9回	涙器について学ぶ。					
第10回	眼圧と房水について学ぶ。					
第11回	視覚情報の流れ（網膜～視覚中枢までの視覚情報の伝達経路）を学ぶ					
第12回	脳の構造と機能（中枢神経系の各部の名称と役割）を学ぶ					
第13回	自律神経系経路・瞳孔反応経路を学ぶ					
第14回	演習問題					
第15回	演習問題					

令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	視覚生理学		担当講師	河崎 栄二		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	配布資料 参考図書；①視能学(第3版)文光堂 視能矯正学(改訂第2版増補)					
学習目標	①視覚生理解のための光学的基礎知識を理解する ②視機能（光覚・形態覚・色覚）を理解する ③視野検査及び電気生理検査の意義を理解する					
成績評価の方法と基準	期末試験100点満点の筆記試験にて評価する。80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	視覚生理の為の基礎知識 光の性質と単位					
第2回	光覚と順応					
第3回	視覚伝導路；視覚情報の伝達路					
第4回	視覚情報処理					
第5回	形態覚 少数視力					
第6回	形態覚 縮視力とコントラスト感度及び対数視力					
第7回	色覚 色の基本知識					
第8回	色覚 色覚の正常と異常					
第9回	色覚 色覚検査					
第10回	視野 視野の概念と検査の基礎知識					
第11回	視野 視野異常パターン					
第12回	視野 疾患と視野異常					
第13回	眼の電気生理 電気検査の種類及びERG					
第14回	眼の電気生理 VEP・EOG・EMG					
第15回	視覚生理の総復習					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	社会福祉		担当講師			
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	新社会福祉とは何か 中央法規					
学習目標	社会福祉とは何か。また、日常生活と社会福祉全般の関連性を学ぶ。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	福祉とは何か					
第2回	我が国の社会福祉の歴史					
第3回	社会保障制度について					
第4回	障害者福祉の法律					
第5回	障害者福祉の支援					
第6回	医療保険のしくみ					
第7回	医療保険の種類					
第8回	医療機関の機能					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門基礎分野	
科目名	医学概論			担当講師	富澤 一仁	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論、中外医学社					
学習目標	視能訓練士が医療従事者として必要な医学や医療に関する基礎知識を学び、理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回						
第2回	ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセントなど医の倫理について理解する					
第3回	主要症状からその原因を探ることについて理解する					
第4回	人口統計の推移、疾病の変化など最新疫学データから見える日本や世界の将来像について理解する					
第5回	国民の健康状態と受療状況、および各医療職種とその現状について理解する					
第6回	日本の医療制度について理解する					
第7回	日本の各保険医療対策について理解する					
第8回	医師法、薬事法、衛生法規など医療関連法規を理解する					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	眼科リハビリテーション		担当講師	東 和孝・内田 昌樹		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義演習					
使用教科書・ 使用教材	プリント配布					
学習目標	視覚障がい概要を理解し、どのような援助、福祉サービスがあるのかを学ぶ。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験 (80%) と出席点 (10%) とボランティア参加 (10%) 分を加味し、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし、59 点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	視覚障害についての理解、視覚障害者の見え方を体験する。					
第 2 回	リハビリテーションの考え方、概要を学ぶ。					
第 3 回	障害福祉の各種制度やサービスについて学ぶ。					
第 4 回	補装具と日常生活用具の支給制度の概要、用具を紹介する。					
第 5 回	社会適応訓練Ⅰ (歩行、コミュニケーション、ADL)、生活訓練の内容、歩行補助具の紹介する。					
第 6 回	社会適応訓練Ⅱ (歩行、コミュニケーション、ADL)、生活訓練の内容、歩行補助具の紹介する。					
第 7 回	視覚障害疑似体験Ⅰ (DVD鑑賞、あいさつ・基本姿勢、狭い所の通過)					
第 8 回	視覚障害疑似体験Ⅱ (溝またぎ、椅子への誘導、ドアの通過)					
第 9 回	視覚障害疑似体験Ⅲ (階段昇降)					
第 10 回	視覚障害疑似体験Ⅳ (講義の振り返り)					
第 11 回	点字の基礎を学ぶ					
第 12 回	障害者スポーツについて学ぶ					
第 13 回	盲導犬について (ビデオ鑑賞)					
第 14 回	盲導犬について (ビデオ鑑賞)					
第 15 回	まとめ					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	生理光学Ⅰ			担当講師	志柿 俊光	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。光学的屈折矯正検査に従事した経験から、眼内レンズ・眼鏡・コンタクトレンズの特性、レーシック・オルソケラトロジーの基礎知識について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	①屈折異常とその矯正(金原出版) ②視能学第3版(文光堂)					
学習目標	眼科の基礎検査である視力屈折検査を習得する 眼屈折系に関する理解を深める					
成績評価の方法と基準	筆記試験・小テスト・出席状況にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	光の光学的特性を理解する					
第2回	レンズの種類と特性を理解する					
第3回	レンズの収差を理解する					
第4回	眼の光学系を理解する					
第5回	近視について理解する					
第6回	遠視について理解する					
第7回	乱視について理解する					
第8回	不同視を理解する					
第9回	遠点・近点①を理解する					
第10回	遠点・近点②の計算が出来るようになる					
第11回	検影値①を理解する					
第12回	検影値②の変換ができるようになる					
第13回	眼鏡矯正について学ぶ					
第14回	コンタクトレンズについて学ぶ					
第15回	総括					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	生理光学 II		担当講師	河崎 栄二		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。光学的屈折矯正検査に従事した経験から、眼内レンズ・眼鏡・コンタクトレンズの特性、レーシック・オルソケラトロジーの基礎知識について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	配布資料 参考図書；①視能学(第2版)文光堂 ②視能矯正学(改訂第2版増補) 金原出版					
学習目標	①屈折異常の屈折状態（遠点・近点・焦線など）と屈折異常の度数表現を理解する。 ②調節機構を学び、調節力・調節域・明視域の理解とその計算ができる。 ③眼鏡矯正に必要な知識（頂間距離・不等像・プリズム偏心等）を学びその計算ができる。					
成績評価の方法と基準	課目修了筆記試験にて7割 課題レポート3割 の評価で60%以上					
講義回数	学習内容					
第 1 回	眼鏡レンズの物理学的基礎（主要点・結像図・Vergence）					
第 2 回	眼球光学系					
第 3 回	屈折異常の種類とその状態（遠視・近視・乱視）					
第 4 回	屈折異常の度数表現と矯正レンズの種類					
第 5 回	課題レポート 1 (巻末問題)解説					
第 6 回						
第 7 回	調節機序と遠点・近点・調節域及び調節の異常（老視）					
第 8 回	レンズ度数と眼屈折度数及び調節力計算（遠点・近点と調節力計算）					
第 9 回	矯正原理及び頂間距離と度数効果 みかけの調節量					
第 1 0 回	プリズム作用とプリズム効果					
第 1 1 回	課題レポート 2 (巻末問題)解説					
第 1 2 回						
第 1 3 回	眼鏡処方と諸問題					
第 1 4 回	コントラスト感度と空間周波数					
第 1 5 回	総復習及び質疑応答					



## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	基礎視能矯正学Ⅰ		担当講師	井手 浩一	
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査業務に従事した経験から、外眼筋の作用・神経支配、眼球運動、輻湊・開散、AC/A比の計算方法、斜視の基礎について講義				
講義方法	講義・実習				
使用教科書・ 使用教材	① 視能矯正学 改定第3版 金原出版 ② 視能学 第3版 文光堂				
学習目標	① 外眼筋の解剖・生理・法則を学び眼球運動を理解する ② 輻湊の種類および開散・生理的複視・AC/A比を理解する ③ 斜視の基本的知識について理解する				
成績評価の 方法と基準	筆記試験（90％）に出席点（10％）を合わせ、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	基礎視能矯正学Ⅰで学ぶ内容について理解する。				
第2回	眼球運動のしくみについて理解する。				
第3回	外眼筋の解剖と作用について理解する。				
第4回	外眼筋の種類と神経支配について理解する。				
第5回	単眼の眼球運動（水平・上下・回旋運動と正常範囲）について理解する。				
第6回	単眼の眼球運動（上下筋の作用と解剖）について理解する。				
第7回	両眼の眼球運動（共同運動 むき運動 離反運動 よせ運動）について理解する。				
第8回	両眼の眼球運動（共同筋と拮抗筋）について理解する。				
第9回	眼球運動に関する法則を理解する。				
第10回	小テストにて外眼筋、眼球運動について復習する。				
第11回	輻湊と開散の定義・発達について理解する。				
第12回	輻湊の種類について理解する。				
第13回	近見反応について理解する。				
第14回	輻湊と開散に関する検査について理解する。				
第15回	AC/A比の定義・計算法について理解する。				
第16回	小テストにて輻湊と開散、AC/A比の計算について復習する。				
第17回	眼位の定義・種類について理解する。				
第18回	斜視・斜位の種類について理解する。				
第19回	斜視の定義および斜位との違いを理解する。				
第20回	斜視の病因論（感覚系・運動系の異常）を理解する。				
第21回	斜視の病因論（屈折・調節の異常・脳障害・遺伝など）を理解する。				
第22回	さまざまな斜視の分類法（眼位ずれ、共同性・麻痺性）を理解する。				
第23回	さまざまな斜視の分類法（恒常性・間欠性）を理解する。				
第24回	さまざまな斜視の分類法（調節、輻湊・開散、固視眼）を理解する。				
第25回	さまざまな斜視の分類法（発症時、原因、両眼視、上下斜視）を理解する				
第26回	小テストにて斜視の基本的知識について復習する。				
第27回	まとめ（外眼筋の解剖・生理・法則を学び眼球運動）				
第28回	まとめ（輻湊の種類および開散・生理的複視・AC/A比）				
第29回	まとめ（斜視の基本的知識）				
第30回	総まとめで試験対策を行う。				

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	基礎視能矯正学Ⅱ		担当講師	内田 昌樹	
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査業務に従事した経験から、両眼視機能の定義・異常、複視、眼筋麻痺について講義する。				
講義方法	講義				
使用教科書・ 使用教材	① 視能学 第3版 文光堂 ② 視能矯正学 第3版 金原出版				
学習目標	① 正常両眼視機能とその成立機序を理解する。 ② 両眼視機能の異常を理解し、弱視・斜視を学ぶための基礎をつくる。 ③ 眼筋麻痺の基礎を学ぶ。				
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	両眼視の定義について学び、理解する。				
第2回	両眼視機能 (同時視・融像・立体視) について学ぶ。				
第3回	両眼視機能 (同時視・融像・立体視) について説明することが出来る。				
第4回	視機能の正常な発達について学ぶ。				
第5回	正常な両眼視の成立機序について学ぶ。(視路について)				
第6回	正常な両眼視の成立機序について学ぶ。(網膜点の局在値と網膜対応点、視方向について)				
第7回	生理的複視を体験し、理解する。				
第8回	ホロプタ円とPanum融像圏、Vieth-Muller円について理解する。				
第9回	ホロプタ円とPanum融像圏、Vieth-Muller円について説明することが出来る。				
第10回	正常両眼視機能の成立条件を理解する。				
第11回	立体視検査の原理について学ぶ(1)				
第12回	立体視検査の原理について学ぶ(2) 検査法と評価				
第13回	立体視検査を実習する。				
第14回	立体視検査を実習する。				
第15回	網膜正常対応と網膜対応異常についての概要を学ぶ。				
第16回	網膜対応検査の原理について学ぶ。(1) 目的と適応				
第17回	網膜対応検査の原理について学ぶ。(2) 検査法と評価				
第18回	網膜対応検査の原理について学ぶ。(3) 検査法と評価				
第19回	網膜対応検査について学ぶ。(1) 赤ガラス法・Bagolini線条ガラス試験・Worth 4 灯試験				
第20回	網膜対応検査について学ぶ。(2) 残像試験・位相差ハプロスコップ・ファンダスハプロスコップ				
第21回	網膜対応検査について学ぶ。(3) 残像転送試験・4△Base out test・両眼ビズスコップ試験				
第22回	複視の定義について学び、様々な複視の表現があることを理解する。				
第23回	複像検査の網膜投影像と視野の関係を学ぶ。				
第24回	複像検査の網膜投影像と視野の関係を学ぶ。				
第25回	複像検査の網膜投影像と視野の関係を学ぶ。				
第26回	複像検査の網膜投影像と視野の関係を学ぶ。				
第27回	複視と眼筋麻痺について学ぶ。				
第28回	複視と眼筋麻痺について理解する。				
第29回	斜視における両眼視機能の異常(抑制、混乱視および網膜対応異常)について学ぶ。				
第30回	総まとめ (定期試験対策を行う。)				

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	基礎視能矯正学Ⅲ		担当講師	西田 聖平	
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査業務に従事した経験から、斜視検査の種類・方法について指導する。				
講義方法	講義				
使用教科書・ 使用教材	① 視能学 (第3版) 文光堂 ② 視能矯正学 金原出版 ③ 眼でみる斜視検査の進めかた 金原出版				
学習目標	・これまで学んだ斜視の基本的知識を基に様々な斜視検査ができる。 ・眼位検査の手技を習得する。				
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	斜視検査における基本的知識の復習を行う				
第2回	斜視検査における基本的知識の復習を行う 2				
第3回	外眼筋の解剖を復習する				
第4回	単眼性眼球運動について説明することができる				
第5回	両眼性眼球運動について説明することができる				
第6回	単眼性眼位検査について説明し、検査することができる				
第7回	眼球運動検査の正常範囲、異常を理解する				
第8回	Hess赤緑試験を理解する				
第9回	両眼注視野、単眼注視野を理解する				
第10回	角膜反射を利用した眼位検査(Hirschberg)を理解する				
第11回	角膜反射を利用した眼位検査(Hirschberg)をすることができる				
第12回	角膜反射を利用した眼位検査(Krimsky)を理解する				
第13回	角膜反射を利用した眼位検査(Krimsky)をすることができる				
第14回	正切尺を利用した眼位検査を理解する				
第15回	遮蔽試験の基礎知識を学ぶ				
第16回	遮蔽一遮蔽除去試験を理解し、検査することができる				
第17回	交代遮蔽試験を理解し、検査することができる				
第18回	プリズムについて理解を深める				
第19回	同時プリズム遮蔽試験について理解する				
第20回	同時プリズム遮蔽試験を検査することができる				
第21回	単眼プリズム遮蔽試験について理解する				
第22回	単眼プリズム遮蔽試験を検査することができる				
第23回	交代プリズム遮蔽試験について理解する				
第24回	交代プリズム遮蔽試験を検査することができる				
第25回	回旋偏位の定量検査を理解する(Maddox)				
第26回	回旋偏位の定量検査を理解する(眼底写真)				
第27回	PATについて理解する(理解する)				
第28回	総括				
第29回	小テストで復習を行う。				
第30回	テスト対策として、総まとめを行う。				

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能検査学Ⅰ		担当講師	志柿俊光 ・ 佐藤幸太郎		
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、視力検査方法、瞳孔間距離検査法について指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・使用教材	①目で見える視力・屈折検査の進め方(金原出版) ②視能学第3版(文光堂)、③配布プリント					
学習目標	眼科の基礎検査である視力屈折検査を習得する 眼屈折系に関する理解を深める					
成績評価の方法と基準	筆記試験・レポート・小テスト・出席状況にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	オリエンテーション					
第2回	眼球構造を学ぶ					
第3回	視力について理解する(1)					
第4回	視力について理解する(2)					
第5回	瞳孔間距離測定(1) 測定法を理解する					
第6回	瞳孔間距離測定(2) 実習し習得する					
第7回	近視について理解する					
第8回	遠視について理解する					
第9回	乱視について理解する(1)					
第10回	乱視について理解する(2)					
第11回	視力検査表を学ぶ					
第12回	裸眼視力検査を習得する					
第13回	自覚的屈折検査(1) 測定法を理解する					
第14回	自覚的屈折検査(2) 実習し習得する					
第15回	乱視表(1) 測定法を理解する					
第16回	乱視表(2) 実習し習得する					
第17回	乱視表(3) 実習し習得する					
第18回	乱視表(4) 実習し習得する					
第19回	クロスシリンダ(1) 測定法を理解する					
第20回	クロスシリンダ(2) 実習し習得する					
第21回	クロスシリンダ(3) 実習し習得する					
第22回	クロスシリンダ(4) 実習し習得する					
第23回	自覚的屈折検査演習(1) 学んだ内容を実習する					
第24回	自覚的屈折検査演習(2) 学んだ内容を実習する					
第25回	雲霧法(1) 測定法を理解する					
第26回	雲霧法(2) 実習し習得する					
第27回	グループ実習(1) 一通りの測定を出来るようになる					
第28回	グループ実習(2) 一通りの測定を出来るようになる					
第29回	オートレフラクトメータ 測定法を理解し実習する					
第30回	まとめ					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	視能検査学Ⅱ		担当講師	志柿俊光 ・ 佐藤幸太郎	
対象学年	1 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、他覚的屈折検査方法、角膜形状検査方法、調節力検査方法について指導する。				
講義方法	講義・実習				
使用教科書・使用教材	①目でみる視力・屈折検査の進めかた 金原出版 ②視能学、文光堂 ③眼科診療マイスター 診察と検査 メジカルビュー社				
学習目標	・生理光学の基礎知識を生かし、眼球の解析技術と屈折矯正技術を習得する ・眼球の調節機能について学び、高齢者の視機能を理解する				
成績評価の方法と基準	筆記試験・レポート・小テスト・出席状況にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	検影法の取り扱い方法について学ぶ。				
第2回	検影法による屈折値の求め方について学ぶ。				
第3回	検影法の実技を行う。				
第4回					
第5回	角膜の解剖の復習を行う。				
第6回	角膜検査の種類について学ぶ。				
第7回	スペキュラマイクロスコープの取り扱いについて学ぶ。				
第8回	スペキュラマイクロスコープのデータの読み方について学ぶ。				
第9回	スペキュラマイクロスコープの実技を行う。				
第10回					
第11回	角膜トポグラフィの取り扱いについて学ぶ。				
第12回	角膜トポグラフィのデータの読み方について学ぶ。				
第13回	角膜トポグラフィの実技を行う。				
第14回					
第15回	調節力についての復習を行う。				
第16回	調節力に関する練習問題を行う。				
第17回	石原式近点計の取り扱いについて学ぶ。				
第18回	石原式近点計による近点の測り方の実技を行う。				
第19回					
第20回	石原式近点計による遠点の測り方の実技を行う。				
第21回					
第22回	オートレフラクトメータの値の読み方の復習をする。				
第23回	オートレフラクトメータの値を参考にした自覚的屈折検査の実技を行う。				
第24回					
第25回	グループに分かれて視力検査・検影法・スペキュラマイクロスコープ・角膜トポグラフィ・石原式近点計の実習を行う。				
第26回					
第27回					
第28回					
第29回					
第30回					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	眼疾病学			担当講師	宮川 勇介	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	現代の眼科学、金原出版					
学習目標	視覚器の解剖と機能を理解し、それぞれの眼疾患の概要を学ぶ					
成績評価の 方法と基準	筆記試験で、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	眼症状と疾患について理解する					
第2回	眼瞼の構造の復習と疾患について学ぶ。					
第3回	涙器の構造と生理について復習し、涙液検査学及び涙液疾患を学ぶ。					
第4回	結膜の構造を復習し、病像及び疾患を学ぶ。					
第5回	角膜の構造と生理を復習し、角膜検査および角膜の病態を学ぶ。					
第6回	角膜感染症とその他角膜疾患及びについて学ぶ。					
第7回	ぶどう膜の構造と生理の復習し、先天異常とぶどう膜炎総論を学ぶ。					
第8回	ぶどう膜炎各論およびその他ぶどう膜疾患を学ぶ。					
第9回	網膜硝子体の解剖と生理について学び、正常眼底を理解する。					
第10回	異常眼底について学ぶ。					
第11回	主な網膜疾患について学ぶ					
第12回	水晶体の構造と生理を復習し白内障を学ぶ。					
第13回	緑内障の定義及び特徴を学ぶ。					
第14回	全身病と眼及び外傷について学ぶ。					
第15回	国家試験過去問解説					

令和5年度  
視能訓練士学科  
シラバス

西日本教育医療専門学校

第2学年

令和4 年度入学生カリキュラム

区分	授 業 内 容	履修時数				履修 単位
		1年	2年	3年	計	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活					
	心理学	30			30	2
	文書表現	30			30	2
	生物学	30			30	2
	物理学	30			30	2
	数学・統計学	30			30	2
	英語	30			30	2
	保健体育	30			30	2
	情報処理 I	30			30	2
情報処理 II	30			30	2	
専門基礎分野	(1) 人体の構造と機能及び心身の発達					
	解剖学	30			30	2
	生理学	30			30	2
	臨床心理学	30			30	2
	保育学 I	15			15	1
	保育学 II	15			15	1
	(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	病理学		15		15	1
	眼科薬理学		30		30	1
	内科学		15		15	1
	神経内科学		15		15	1
	小児科学		15		15	1
	精神医学		15		15	1
	公衆衛生学		15		15	1
	看護学	20			20	1
	(3) 視覚機能の基礎と検査機器					
	視器の解剖・生理学	30			30	1
	視覚生理学	30			30	1
	眼科総合医療論		30		30	1
	眼科臨床検査学		60		60	2
	総合視能学			120	120	4
	(4) 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念					
	医療関係法規と医療倫理		30		30	1
社会福祉	15			15	1	
医学概論	15			15	1	
眼科リハビリテーション	30			30	2	
専門分野	(1) 基礎視能矯正学					
	生理光学 I	30			30	1
	生理光学 II	30			30	1
	生理光学実習 I		30		30	1
	生理光学実習 II		60		60	2
	基礎視能矯正学 I	60			60	2
	基礎視能矯正学 II	60			60	2
	基礎視能矯正学 III	60			60	2
	視能矯正学研究法			60	60	2
	(2) 視能検査学					
	視能検査学 I	60			60	2
	視能検査学 II	60			60	2
	視能検査学 III		60		60	2
	視能検査学 IV		60		60	2
	視能検査学 V		60		60	2
	(3) 視能障害学					
	眼疾病学	30			30	1
	神経眼科		30		30	1
	弱視各論		15		15	1
	斜視各論		60		60	2
	眼振各論		15		15	1
	(4) 視能訓練学					
	視能訓練学実習		60		60	2
	視能訓練学 I		60		60	2
	視能訓練学 II		60		60	2
	視能訓練学 III		60		60	2
	ロービジョン学		30		30	2
(5) 臨地実習						
臨地実習			630	630	14	
各学年年間合計		920	900	810	2630	101
合計						



## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	病理学		担当講師	今村 隆寿・藤原 章雄		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院					
学習目標	疾病の成り立ちを病理総論的に理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験 (90%) に小テスト (10%) を合わせ、80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	病理学とは					
第 2 回	先天異常と遺伝子異常					
第 3 回	代謝障害 (アミロイドーシス、脂質代謝異常、タンパク質代謝異常など)					
第 4 回	循環障害 (虚血、梗塞、ショック、側副循環など)					
第 5 回	炎症 (炎症の転機、炎症の病理組織像、炎症の種類など)					
第 6 回	感染症 (感染症の種類、感染経路、感染予防策など)					
第 7 回	腫瘍 (腫瘍の命名法、進展様式、発癌機序など)					
第 8 回	免疫 (液性免疫と細胞性免疫、アレルギーと自己免疫疾患など)					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	眼科薬理学		担当講師	大森 一彦		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	系統看護学講座専門基礎基礎分野薬理学、医学書院					
学習目標	薬の作用機序を理解する					
成績評価の 方法と基準	期末試験100点満点の筆記試験にて評価する。80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	薬理学を学ぶ目的を理解する					
第2回	薬が作用する細胞の構造と仕組みを理解する					
第3回	情報伝達系としての受容体の性質と種類を理解する					
第4回	神経の構造と情報伝達の仕組みを理解する					
第5回	中枢神経について理解する					
第6回	交感神経に作用する薬を理解する					
第7回	副交感神経に作用する薬を理解する					
第8回	点眼薬について理解する					
第9回	麻酔薬について理解する					
第10回	薬物の投与方法について理解する					
第11回	薬剤の副作用を理解する					
第12回	副腎皮質ステロイドを理解する					
第13回	耐性と院内感染を理解する					
第14回	医薬品による健康被害を学ぶ					
第15回	総括					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	内科学		担当講師	後藤 知己		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布プリント					
学習目標	成人の内科領域の疾患の基礎病態を理解する。また、眼科領域の症状と内科疾患との関連を理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	循環器病について学ぶ					
第2回	代謝病について学ぶ1					
第3回	代謝病について学ぶ2					
第4回	呼吸器病・感染症について学ぶ					
第5回	消化器病・血液病について学ぶ					
第6回	免疫病・腎臓病について学ぶ					
第7回	神経病・内分泌病について学ぶ					
第8回	総括					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	神経内科学		担当講師	熊本大学脳神経外科		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布プリント					
学習目標	基礎的な神経学的症候の理解、神経疾患の理解目標					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	神経内科紹介					
第2回	神経解剖と画像					
第3回	神経症候学 (高次脳機能障害中心)					
第4回	脳血管障害					
第5回	頭部外傷、脳腫瘍					
第6回	視力低下を生じる神経内関連疾患 1					
第7回	視力低下を生じる神経内関連疾患 2					
第8回	眼球運動障害、視野障害を生じる疾患					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	小児科学		担当講師	後藤 知己		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	プリント					
学習目標	小児の成長発達を踏まえ、小児に特有な疾患の健康障害の病態生理を理解し、その治療・予防について学習する					
成績評価の 方法と基準	筆記試験で80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	成長：小児の各時期での成長の特徴と環境因子について					
第2回	発達：正常の機能獲得時期と環境因子について					
第3回	染色体・遺伝性疾患					
第4回	予防接種・感染症（麻疹・風疹・水痘ほか）					
第5回	新生児疾患・呼吸器疾患・血液疾患					
第6回	循環器疾患・消化器疾患・神経疾患					
第7回	内分泌疾患・代謝疾患・腎臓疾患					
第8回	アレルギー性疾患・事故・蘇生					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	精神医学		担当講師	平原 信雄		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布資料					
学習目標	精神障害について、偏見なく正しい知識を身につける。					
成績評価の 方法と基準	授業態度に筆記試験を加味し、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	日本における精神科の現状、精神障害の分類、精神科領域の法律について学ぶ					
第2回	統合失調症について学ぶ					
第3回	気分障害について学ぶ					
第4回	神経症性障害について学ぶ					
第5回	器質性精神障害について学ぶ					
第6回	精神作用物質関連障害について学ぶ					
第7回	パーソナリティ障害、その他					
第8回	自殺について学ぶ					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	公衆衛生学		担当講師	燕 龍大		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	わかりやすい公衆衛生学 出版社：ヌーヴェルヒロカワ					
学習目標	公衆衛生学の基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について考える力を養うこと。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可、 59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	健康の指標人口問題について学ぶ					
第2回	疫学手法1 疫学用語について学ぶ					
第3回	疫学手法2 研究手法について学ぶ					
第4回	生活環境1 公害問題について学ぶ					
第5回	生活環境2 食品衛生について学ぶ					
第6回	感染症とその予防法について学ぶ					
第7回	保健衛生1 集団検診について学ぶ					
第8回	保健衛生2 産業保健について学ぶ					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	眼科総合医療論		担当講師	竹下 哲二		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	視能学、文光堂 現代の眼科学、医学書院					
学習目標	眼科検査と眼疾患を各分野を関連付けて総合的に理解し、他の者へ説明が出来る力を培う。					
成績評価の 方法と基準	小テスト (10%)、筆記試験 (90%) にて評価し、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし 59 点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	眼症状と疾患について理解する					
第 2 回	眼瞼の構造の復習と疾患について学ぶ。					
第 3 回	涙器の構造と生理について復習し、涙液検査学及び涙液疾患を学ぶ。					
第 4 回	結膜の構造を復習し、病像及び疾患を学ぶ。					
第 5 回	角膜の構造と生理を復習し、角膜検査および角膜の病態を学ぶ。					
第 6 回	角膜感染症とその他角膜疾患及びについて学ぶ。					
第 7 回	ぶどう膜の構造と生理の復習し、先天異常とぶどう膜炎総論を学ぶ。					
第 8 回	ぶどう膜炎各論およびその他ぶどう膜疾患を学ぶ。					
第 9 回	網膜硝子体の解剖と生理について学び、正常眼底を理解する。					
第 10 回	異常眼底について学ぶ。					
第 11 回	主な網膜疾患について学ぶ					
第 12 回	水晶体の構造と生理を復習し白内障を学ぶ。					
第 13 回	緑内障の定義及び特徴を学ぶ。					
第 14 回	全身病と眼及び外傷について学ぶ。					
第 15 回	国家試験過去問解説					



## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	眼科臨床検査学		担当講師	井手 浩一 ・ 宮川 勇介		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事していた経験から、問診のポイント、各種眼検査の実技、患者の誘導方法を指導する。					
講義方法	①スライドを使用し、投問に答える ②患者対応講義及び実習					
使用教科書・ 使用教材	①視能学第2版(文光堂) ②眼科診療マスター-[診察と検査](MEDICAL VIEW)					
学習目標	疾患を理解し、疾患と関連ある必要検査を理解する 問診方法を知り、臨床上主な疾患に必要な問診が行える 安全誘導の必要性を学び、患者誘導に必要な手技が行える					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	診療録の意義、目的、記載法について学ぶ					
第2回						
第3回	ロールプレイングの実施方法について学ぶ					
第4回	問診の進め方、接遇とマナーについて学ぶ					
第5回	問診のロールプレイング(実技)					
第6回						
第7回	眼科領域の院内感染対策について学ぶ					
第8回						
第9回	視覚障害者の誘導の方法について学ぶ					
第10回	誘導のロールプレイング(実技) ① 診察室・検査室での誘導 ② 視覚障害者の誘導 ③ 車椅子の誘導					
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
第16回						
第17回	臨地実習を想定した口頭試問 ① 視力・屈折検査 ② 視野検査 ③ 眼疾患					
第18回						
第19回						
第20回						
第21回						
第22回	検査学総復習 ① 各種器械の設定の確認 ② 各検査の説明の確認 ③ 各検査の手技の確認					
第23回						
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	医療関係法規と医療倫理		担当講師	志柿俊光		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	配布プリント					
学習目標	医療倫理と医療に関係する法律を学ぶ					
成績評価の方法と基準	筆記試験と小テスト、出席にて評価。80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	倫理とは何か。義務論と功利主義。					
第2回	患者の権利に関するWNAリスボン宣言について学ぶ。					
第3回	生命倫理について学ぶ。ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言を学ぶ。					
第4回	インフォームドコンセントについて学ぶ。					
第5回	法規の基礎と視能訓練士法について学ぶ。					
第6回	医療法について学ぶ。					
第7回	医療保障制度について学ぶ。					
第8回	公費医療制度について学ぶ。					
第9回	その他法規について学ぶ。					
第10回	運転免許と視機能について学ぶ。					
第11回	医療事故の責任について学ぶ。					
第12回	国家試験過去問題を解く					
第13回	国家試験過去問題を解く					
第14回	国家試験過去問解説					
第15回	国家試験過去問解説					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	生理光学実習Ⅰ		担当講師	河崎 栄二・内田 昌樹		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、生理光学実習を指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	屈折異常とその矯正、1年次の視能検査学Ⅰ・Ⅱ、生理光学Ⅰ・Ⅱで配布した資料。					
学習目標	生理光学に関係する計算問題を実技を通して理解する。					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験7割、実技・レポート3割にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	レンズメーターの測り方を学ぶ。(単焦点、累進屈折力、多焦点、プリズムレンズ)					
第2回	他覚的屈折検査を学ぶ。(検影法、オートレフケラトメータ)					
第3回	調節力検査について学ぶ。(石原式近点計、アコモレフ)					
第4回	両眼開放視力検査法について学ぶ。					
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レンズメーター</li> <li>・ 他覚的屈折検査</li> <li>・ 調節検査</li> <li>・ 両眼開放視力検査</li> </ul> 4つの項目をグループに分けて2回実技実習					
第6回						
第7回						
第8回						
第9回						
第10回						
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第13回	実技試験					
第14回	関連する過去の国家試験問題を解く。					
第15回	関連する過去の国家試験問題の解説。					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	生理光学実習 II		担当講師	河崎 栄二・内田 昌樹		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、コンタクトレンズ処方手順、眼鏡処方手順、レンズメータの使用方法について指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	屈折異常とその矯正					
学習目標	各種コンタクトレンズの特徴と処方及び装用指導ができるようになる。 眼鏡処方ができるようになる。					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験7割、実技・レポート3割にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	コンタクトレンズの基礎知識を学ぶ。					
第2回						
第3回	スリットランプについて基礎から学ぶ。					
第4回						
第5回	スリットランプ実技実習する。					
第6回						
第7回	ソフトコンタクトレンズの他眼装脱を学ぶ					
第8回						
第9回	ソフトコンタクトレンズの他眼装脱を実習する。					
第10回						
第11回	ソフトコンタクトレンズのフィッティングを学ぶ。					
第12回						
第13回	ソフトコンタクトレンズのフィッティングを実習する。					
第14回						
第15回	ハードコンタクトレンズの基礎を学ぶ。					
第16回						
第17回	残余乱視とソフトトーリック処方の考え方について学ぶ。					
第18回						
第19回	老視とコンタクトレンズ学ぶ。					
第20回	ソフトバイフォーカルレンズの度数補正を実習する。					
第21回	ソフトコンタクトレンズのフィッティングと度数補正を実習する。					
第22回						
第23回	ソフトコンタクトレンズのフィッティングと度数補正を実習する。					
第24回						
第25回	眼鏡レンズについて復習する。					
第26回	眼鏡処方を実習する。					
第27回	眼鏡処方を実習する。					
第28回						
第29回	実技試験を行う。					
第30回						

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野	
科目名	視能検査学Ⅲ		担当講師	志柿俊光 ・ 宮川勇介	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、瞳孔検査方法、視野検査方法について指導する。				
講義方法	講義・実習				
使用教科書・ 使用教材	① 目で見える視野検査の進め方(金原出版) ② 視能矯正学改訂第 2 版増補(金原出版) ③ 視能学第 2 版 (文光堂) ※<参考資料>プリント				
学習目標	瞳孔検査について理解し、対光反応検査を実習する 視野の概念を理解し、検査の意義と手技を修得する				
成績評価の 方法と基準	筆記試験と小テスト、レポート、出席状況にて 80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。				
講義回数	学習内容				
第 1 回	視野の概念と正常視野を理解する				
第 2 回	視覚伝導路と神経走行について学ぶ				
第 3 回	視覚伝導路を具体的に学ぶ				
第 4 回	視覚伝導路と疾患、視野の関係を理解する				
第 5 回	視野測定法の種類について学ぶ				
第 6 回	近見加入度数を理解する				
第 7 回	動的量的視野測定法①について学ぶ				
第 8 回	動的量的視野測定法②を実習する				
第 9 回	静的量的視野測定法①について学ぶ				
第 10 回	静的量的視野測定法②を実習する				
第 11 回	瞳孔、対光反応について理解する				
第 12 回	中心フリッカ検査について理解する				
第 13 回	感度と閾値と単位、視野に影響を与える因子について学ぶ				
第 14 回	視野の病期分類、心因性視覚障害について学ぶ				
第 15 回	グループ実習①				
第 16 回					
第 17 回	グループ実習②				
第 18 回					
第 19 回	グループ実習③				
第 20 回					
第 21 回	グループ実習④				
第 22 回					
第 23 回	グループ実習⑤				
第 24 回					
第 25 回	グループ実習⑥				
第 26 回					
第 27 回	グループ実習⑦				
第 28 回					
第 29 回	まとめ①				
第 30 回	まとめ②				

動的視野、静的視野、瞳孔・対光反応、中心フリッカ等の検査をグループに分かれて実習し、習得する

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分		専門分野	
科目名	視能検査学Ⅳ		担当講師		志柿俊光 ・ 宮川勇介	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、外眼部検査方法、眼底検査方法、眼底カメラ撮影方法、電気生理検査方法について指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・使用教材	①現代の眼科学、金原出版 ②視能学、文光堂 ③眼科診療マイスター 診察と検査 メジカルビュー社					
学習目標	各種検査機器について、その検査目的および基本的手技を学び眼疾患との関連を理解する					
成績評価の方法と基準	筆記試験と小テスト、レポート、出席状況にて80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	外眼部検査（瞼裂幅、眼瞼挙筋検査、眼球突出度検査）を学ぶ。					
第2回	外眼部検査（瞼裂幅、眼瞼挙筋検査、眼球突出度検査）の実技を行う。					
第3回						
第4回						
第5回	涙液検査（シルマー試験、BUT）の実技を行う。					
第6回						
第7回	散瞳薬について学ぶ。点眼の方法を学び、実技を行う。					
第8回	直像鏡、倒像鏡の取り扱い方法について学ぶ。					
第9回	直像鏡、倒像鏡の実技を行う。					
第10回	散瞳・無散瞳カメラの取り扱い方法について学ぶ。					
第11回	散瞳・無散瞳カメラの実技を行う。					
第12回	OCT検査の取り扱い方法とデータの読み方について学ぶ。					
第13回	眼底検査（直像鏡、倒像鏡、眼底カメラ、OCT）の実技を行う。					
第14回						
第15回						
第16回						
第17回	電気生理検査（ERG）の取り扱い方法とデータの読み方について学ぶ。					
第18回	電気生理検査（VEP）の取り扱い方法とデータの読み方について学ぶ。					
第19回	ERG ・ VEPの実技を行う。					
第20回						
第21回						
第22回	グループに分かれて外眼部検査・涙液検査・眼底検査・OCT・電気生理検査実技実習を行う。					
第23回						
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能検査学Ⅴ		担当講師	宮川勇介・志柿俊光		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科一般検査、視能矯正検査に従事した経験から、眼圧検査方法、色覚検査方法、超音波検査方法について指導する。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	①眼科診療マイスター診察と検査、MEDICAL VIEW社 ②現代の眼科学、金原出版 ③視能学、文光堂					
学習目標	各種検査機器について、その検査目的および基本的手技を学び眼疾患との関連を理解する					
成績評価の 方法と基準	科目終末試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	コントラスト感度と縮視力について学ぶ					
第2回	コントラスト感度についての練習問題を行う。					
第3回	コントラスト感度の実技を行う。					
第4回						
第5回	眼圧検査について学ぶ。					
第6回	眼圧測定機器の種類と特徴について学ぶ。					
第7回	眼圧検査（触診法、圧平眼圧計、圧入眼圧計）の実技を行う。					
第8回						
第9回	色覚異常について学ぶ。					
第10回	色覚検査法（仮性同色表）について学ぶ。					
第11回	色覚検査法（パネルD-15）について学ぶ。					
第12回	色覚検査法（アノマロスコープ）について学ぶ。					
第13回	色覚検査（仮性同色表・パネルD-15・アノマロスコープ）の実技を行う。					
第14回						
第15回	超音波検査について学ぶ。					
第16回	超音波検査（Aモード・Bモード）の取り扱い方法について学ぶ。					
第17回	IOL度数計算を行う。（問診から目標屈折値を決定し、眼内レンズ度数を選択する。）					
第18回	超音波検査の実技を行う。					
第19回						
第20回	光覚閾値の異常の疾患と暗順応曲線について学ぶ。					
第21回	光覚検査について学ぶ。					
第22回	グループに分かれてコントラスト感度検査・眼圧検査・色覚検査・超音波検査の実技実習を行う。					
第23回						
第24回						
第25回						
第26回						
第27回						
第28回						
第29回						
第30回						

令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	神経眼科		担当講師	河崎栄二・宮川 勇介		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	視能学 第3版					
学習目標	視能訓練士に必要な神経眼科の理解、斜視手術の目的、術式、術名を覚える。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験 (90%) に小テスト (10%) を合わせ、80 点以上は優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	眼の自律神経系 (自立神経・瞳孔)					
第 2 回	眼の自律神経系 (近見反応・調節・輻輳開散)					
第 3 回	脳と神経 (脳神経系・眼と関連ある中枢神経と末梢神経)					
第 4 回	脳と神経 (視覚情報処理)					
第 5 回	眼球運動系 核上性中枢と末梢神経 (1)					
第 6 回	眼球運動系 核上性中枢と末梢神経 (2)					
第 7 回	眼球運動系の復習 核上性眼球運動異常					
第 8 回	瞳孔の異常について学ぶ					
第 9 回	視神経疾患について学ぶ					
第 10 回	視路の疾患について学ぶ					
第 11 回	眼球運動障害 核上性眼球運動について学ぶ					
第 12 回	眼球運動障害 斜視特殊型について学ぶ					
第 13 回	斜視手術について学ぶ					
第 14 回	まとめ 復習					
第 15 回	試験問題の演習と解説					



## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	弱視各論		担当講師	河崎 栄二		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	配布資料 参考図書；①視能学(第2版)文光堂 ②視能矯正学(改訂第2版増補) 金原出版					
学習目標	弱視訓練・治療の学習に入る前知識として、 ①弱視の概念を学び、弱視の種類(分類)を知る。 ②弱視の病態を学び、弱視の各型の診断および検査法を学ぶ。					
成績評価の 方法と基準	科目終了筆記試験 成績結果 60%以上					
講義回数	学習内容					
第1回	弱視の概念(弱視の定義 原因)					
第2回	乳幼児の視機能の発達と視力特性(視機能の発達 小児の視力特性)					
第3回	乳幼児の視力検査法と心因性視覚障害(乳幼児視力の定量評価 心因性視覚障害)					
第4回	弱視の分類(臨床分類 原因分類)					
第5回	弱視の病態(弱視病院論 弱視の病態)					
第6回	弱視の各型(弱視の種類と両眼視機能)					
第7回	弱視の診断と検査					
第8回	総復習とまとめ					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分		専門分野	
科目名	斜視各論		担当講師		西田 聖平	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事した経験から、斜視の定義、斜視の各型の特徴、斜視の特殊型について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	①視能矯正学 金原出版 ②視能学 第3版 文光堂					
学習目標	斜視の概念、病態、分類について学び理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	外眼筋の作用を理解しているか確認する					
第2回	斜視の基本的知識を理解する					
第3回	斜視の病因論を説明することができる					
第4回	斜視の分類(共同性と非共同性 恒常性と間欠性)について説明することができる					
第5回	斜視の分類(調節関与 輻輳関与 固視による分類)について説明することができる					
第6回	1. 外斜視(恒常性、間欠性)の分類を正確に理解し、説明することができる					
第7回	2. 外斜視(恒常性、間欠性)の分類を正確に理解し、説明することができる					
第8回	1. 非調節性内斜視のメカニズムを理解し、分類することができる					
第9回	2. 非調節性内斜視のメカニズムを理解し、分類することができる					
第10回	交代性上斜位と微小斜視を理解し、説明することができる					
第11回	1. A-V型斜視の分類と筋原説を説明することができる					
第12回	2. A-V型斜視の分類と筋原説を説明することができる					
第13回	1. 麻痺性斜視の基本的知識を理解する					
第14回	2. 麻痺性斜視の基本的知識を理解する					
第15回	1. 動眼神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第16回	2. 動眼神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第17回	滑車神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第18回	外転神経麻痺のメカニズムを理解し、説明することができる					
第19回	全外眼筋麻痺のメカニズムを理解し、疾患ごとに説明することができる					
第20回	1. 筋原性斜視(MG,甲状腺眼症)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第21回	2. 筋原性斜視(MG,甲状腺眼症)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第22回	筋原性斜視(ミトコンドリアミオパチー)を理解し、説明することができる					
第23回	1. 筋原性斜視(固定斜視、Brown症候群)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第24回	2. 筋原性斜視(固定斜視、Brown症候群)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第25回	筋原性斜視(外眼筋炎)を理解し、説明することができる					
第26回	機械的斜視(眼窩底骨折)のメカニズムを理解し、説明することができる					
第27回	機械的斜視(Duane症候群)のメカニズムを理解し、分類することができる					
第28回	総まとめ					
第29回	臨床のお話					
第30回	試験対策					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	眼振各論		担当講師	筒井 健太		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事した経験から眼振について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第2版 文光堂 ②視能矯正学 改訂第3版 金原出版					
学習目標	眼振の種類・検査所見の読み方・治療法を理解する。 外眼振の働きを理解し展開させることが出来るようになる。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて、80点以上は優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	生理的眼振の分類・特徴・実際の動きを理解し説明ができる。					
第2回	先天眼振（狭義）の急速相と緩徐相の動きから静止位を把握し、頭位異常と関連づけて理解・説明できる。					
第3回	潜伏眼振・顕性潜伏眼振の特徴と動き・両者の違いを理解し説明できる。					
第4回	その他の病的眼振（先天・後天）を理解する。					
第5回	眼振の診かたや記載方法を理解し、医師に分かりやすい記載ができるようになる。					
第6回	電気眼振図(ENG)の触り方・進め方を理解し、診断のための検査ができる。					
第7回	眼振に対するプリズム療法を種類別に理解し説明ができる。					
第8回	眼振に対する上記以外の非観血療法、また観血療法（手術）の対象や特徴を理解し説明できる。					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能訓練学実習		担当講師	井手浩一・宮川勇介・高木満里子		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査訓練業務に従事した経験から、眼位兼検査、眼球運動検査について指導する。					
講義方法	講義実習					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 (第3版) 文光堂 ②視能矯正学 (改訂第3版) 金原出版 参考図書 視能学エキスパート 視能訓練学 医学書院					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学んだ斜視の基本的知識を基に眼位検査、眼球運動検査が出来る。</li> <li>眼位検査、眼球運動検査の実技を習得する。</li> </ul>					
成績評価の 方法と基準	筆記試験 (80%) に実技試験 (20%) を合わせて、80 点以上を優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	むき運動およびひき運動検査、輻湊検査について学び、実習を行う。					
第2回						
第3回						
第4回						
第5回	むき運動検査、輻湊検査の確認実技小テストを行う。					
第6回						
第7回	9方向むき眼位検査の眼位撮影法を理解する。					
第8回						
第9回	定性および定量眼位検査について復習し、実習を行う。					
第10回						
第11回						
第12回	定性眼位検査の確認実技小テストを行う。					
第13回						
第14回	定量眼位検査(A.P.C.T)の実習を行う。					
第15回						
第16回						
第17回						
第18回						
第19回						
第20回	グループ実習を行う。(Hess赤緑試験、注視野検査、大型弱視鏡、眼位検査、眼球運動検査)					
第21回						
第22回						
第23回						
第24回						
第25回	実技試験に向けた実習を行う。					
第26回						
第27回	実技試験					
第28回						
第29回						
第30回						

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練学科		科目区分	専門分野	
科目名	視能訓練学Ⅰ		担当講師	井手 浩一	
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。視能矯正検査訓練業務に従事した経験から、斜視の問診ポイント、両眼視機能検査について指導する。				
講義方法	講義・実習				
使用教科書・使用教材	① 視能学 第3版 文光堂 ② 視能矯正学 第3版 金原出版				
学習目標	大型弱視鏡検査、網膜対応検査、立体視検査について学び、お互いに実習を行うことができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (90%) に出席点 (10%) を合わせ、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。				
講義回数	学習内容				
第1回	大型弱視鏡検査における器械の構造と測定原理及び検査項目について学ぶ。				
第2回	大型弱視鏡検査における器械の構造と測定原理及び検査項目について実習を行う。				
第3回	大型弱視鏡検査の検査の目的について学ぶ。				
第4回	大型弱視鏡の視標スライドの分類、検査前準備について学ぶ。				
第5回	大型弱視鏡の視標スライドの分類、検査前準備について実習を行う。				
第6回	大型弱視鏡における他覚的斜視角について学ぶ。				
第7回	大型弱視鏡における同時視検査について学ぶ。(網膜対応を含む)				
第8回	大型弱視鏡における同時視検査について実習を行う。				
第9回	大型弱視鏡における融像検査について学ぶ。				
第10回	大型弱視鏡における融像検査について実習を行う。				
第11回	大型弱視鏡における立体視検査について学ぶ。				
第12回	大型弱視鏡における立体視検査について実習を行う。				
第13回	大型弱視鏡における眼球運動検査について学ぶ。				
第14回	$\gamma$ 角の測定について実習を行う。				
第15回	$\gamma$ 角の測定について実習を行う。				
第16回	大型弱視鏡における同時視・融像・立体視検査を実際に行うことができる。				
第17回	大型弱視鏡における同時視・融像・立体視検査を実際に行うことができる。				
第18回	網膜対応検査について学ぶ。(1) Bagolini線条ガラス試験・位相差ハプロスコープ・ボラテスト・プリズム順応試験				
第19回	網膜対応検査について学ぶ。(2) ファンダスハプロスコープ・赤フィルタ検査・Worth 4 灯試験				
第20回	網膜対応検査について学ぶ。(3) 陰性/陽性残像試験・両眼ビズコープ・残像転送試験				
第21回	網膜対応検査について実習を行う。				
第22回	網膜対応検査について実習を行う。				
第23回	網膜対応検査について実習を行う。				
第24回	立体視検査について学ぶ。(1) 成立条件・測定条件・原理				
第25回	立体視検査について学ぶ。(2) 検査法				
第26回	立体視検査について実習を行う。				
第27回	立体視検査について実習を行う。				
第28回	立体視検査について実習を行う。				
第29回	立体視検査について実習を行う。				
第30回	総まとめ				

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	視能訓練学Ⅱ		担当講師	井手 浩一		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。眼科一般検査、視能矯正検査・訓練に従事。					
講義方法	講義・実習					
使用教科書・ 使用教材	①視能学 第2版 文光堂 ②視能矯正学 改訂第3版 金原出版					
学習目標	弱視の検査・治療について理解する。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験（90％）に出席点（10％）を合わせ、80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	弱視の原因・病態・分類について確認する。					
第2回	弱視に関する問診について理解する。					
第3回	弱視の視力検査（定性検査）について理解する。					
第4回	弱視の視力検査（定量検査）について理解する。					
第5回	角膜反射による固視検査（眼位に異常がない場合）について理解する。					
第6回	角膜反射による固視検査（眼位に異常がある場合）について理解する。					
第7回	ビズスコープ（オイテスコープ）を利用した固視検査（能動的な方法）について理解する。					
第8回	ビズスコープ（オイテスコープ）を利用した固視検査（受動的な方法）について理解する。					
第9回	ビズスコープ（オイテスコープ）を利用した固視検査（能動的な方法）の実技を行う。					
第10回	ビズスコープ（オイテスコープ）を利用した固視検査（受動的な方法）の実技を行う。					
第11回	その他の固視検査について理解する。					
第12回	調節麻痺薬を使用した屈折検査について理解する。					
第13回	4プリズム基底外方試験について理解する。					
第14回	両眼性固視検査（固視持続能力の確認）について理解する。					
第15回	両眼性固視検査（結果判定）について理解する。					
第16回	眼鏡処方について理解する。					
第17回	遮閉法（予防的）について理解する。					
第18回	遮閉法（治療的）について理解する。					
第19回	健眼アトロピン点眼療法について理解する。					
第20回	Bangerter法、Cuppers法について理解する。					
第21回	ペナリゼーションについて理解する。					
第22回	Moor-Johnson法について理解する。					
第23回	逆プリズム法について理解する。					
第24回	患眼作動法について理解する。					
第25回	弱視治療効果の判定と評価について理解する。					
第26回	症例検討（斜視弱視、微小斜視弱視、不同視弱視）					
第27回	症例検討（屈折異常弱視、経線弱視、形態覚遮断弱視）					
第28回	治療に対する判定と評価について理解する。					
第29回	まとめ（斜視弱視、微小斜視弱視、不同視弱視）					
第30回	まとめ（屈折異常弱視、経線弱視、形態覚遮断弱視）					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士		科目区分	専門分野		
科目名	視能訓練学Ⅲ		担当講師	高木 満里子		
対象学年	2 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義、実習					
使用教科書・ 使用教材	小林 義治 他 編 : 視能学、第3版、文光堂、2022. 副読本 ①公益社団 日本視能訓練士協会監修: 視能学エキスパート 「視能訓練学」 医学書院					
学習目標	視能訓練士として必要な弱視・斜視についての基本的知識を広げ、正しい評価により 臨床における診断と治療に応用できる力を身につける。					
成績評価の 方法と基準	期末試験 (90%) に学習態度・小テスト (10%) 分を合わせ、80 点以上を優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	小児視力の発達と特性 (感受性期) について説明することができる					
第 2 回	弱視の基本的知識から治療を導き出すことができる					
第 3 回	弱視の種類別による治療法が説明できる					
第 4 回	視力増強訓練の説明ができる					
第 5 回	先天内斜視、後天内斜視における基本的治療の説明ができる					
第 6 回	屈折に関与する内斜視、その他の内斜視治療について述べるができる					
第 7 回	間欠性外斜視の基本的治療と視能矯正訓練について説明することができる					
第 8 回	恒常性外斜視の基本的治療を説明することができる					
第 9 回	斜視 (その他の斜視) の基本的治療を修得する。 (A-V型斜視、交代性上斜位の治療)					
第 10 回	微小斜視、上下斜視、回旋斜視の基本的治療を習得する					
第 11 回	大型弱視鏡の検査の評価ができ視能訓練の説明ができる					
第 12 回	抑制除去訓練 (大型弱視鏡・他の方法) ができる					
第 13 回	斜視症例 (1) の検査の組み立てができる					
第 14 回	斜視症例 (1) の網膜対応異常の矯正訓練と融像訓練を実施することができる					
第 15 回	斜視症例 (2) の検査の組み立てができる					
第 16 回	斜視症例 (2) の網膜対応異常の矯正訓練と融像訓練を実施することができる					
第 17 回	抑制除去訓練、融像訓練 (大型弱視鏡・他の方法) ができる					
第 18 回	網膜対応異常の矯正訓練 (大型弱視鏡) の説明ができる					
第 19 回	薬理的斜視治療を具体的に述べるができる					
第 20 回	光学的視能矯正を実施することができる					
第 21 回	対象となる症例にプリズム法を行うことができる (プリズムの合成法)					
第 22 回	複視に対する光学的治療法を応用することができる					
第 23 回	薬理的視能矯正の対象となる症例を列挙することができる					
第 24 回	麻痺性斜視治療を修得する					
第 25 回	A-V型斜視症例の治療を理解する					
第 26 回	呈示された症例の診断名および検査方法を説明し、検査を行うことができる (1)					
第 27 回	呈示された症例の診断名および検査方法を説明し、検査を行うことができる (2)					
第 28 回	症例の診断名および検査の実際を修得する					
第 29 回	ロール・プレイイング					
第 30 回	学生自らの習熟度を知り、臨地実習に対応できるようにする。					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	ロービジョン学		担当講師	志柿 俊光		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
実務経験	視能訓練士として、眼科勤務あり。ロービジョン外来に従事した経験から、ロービジョンケアに必要な検査、補助具の選定、評価や対応について講義する。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	新しいロービジョンケア メジカルビュー社					
学習目標	ロービジョンの概念を学び、ロービジョンケアを理解する。ロービジョンケアに必要な検査、補助具の選定、評価や対応について理解する。					
成績評価の方法と基準	筆記試験 (90%) に出席点 (10%) を合わせ、80 点以上を優、70 点以上は良、60 点以上は可とし、59 点以下は不可とする。					
講義回数	学習内容					
第 1 回	オリエンテーション。					
第 2 回	視覚障がい の 定義 について 学ぶ。					
第 3 回	身体障害者障害程度等級の視力・視野基準について学ぶ。					
第 4 回	身体障害認定基準及び認定要領から解釈と運用を学ぶ。					
第 5 回	ロービジョンケアの概念について学ぶ。					
第 6 回	光学的補助具と拡大率について学ぶ。					
第 7 回	非光学的補助具と日常生活用具について学ぶ。					
第 8 回	代表的疾患 (緑内障、網膜色素変性) と対応について学ぶ。					
第 9 回	代表的疾患 (糖尿病網膜症、加齢黄斑変性) と対応について学ぶ。					
第 10 回	視覚障害体験キットを作成する。					
第 11 回	視覚障害体験キットを用いて体験する。					
第 12 回	公的サービスについて学ぶ。					
第 13 回	過去の視能訓練士国家試験問題 (ロービジョン分野) を解く。					
第 14 回	過去の視能訓練士国家試験問題 (ロービジョン分野) を解説する①。					
第 15 回	過去の視能訓練士国家試験問題 (ロービジョン分野) を解説する②。					



令和5年度  
視能訓練士学科  
シラバス

西日本教育医療専門学校

第3学年

令和3年度入学生カリキュラム

区分	授 業 内 容	履修時数				履修 単位
		1年	2年	3年	計	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活					
	心理学	30			30	2
	文書表現	30			30	2
	生物学	30			30	2
	物理学	30			30	2
	数学・統計学	30			30	2
	英語	30			30	2
	保健体育	30			30	2
	情報処理 I	30			30	2
情報処理 II	30			30	2	
専門基礎分野	(1) 人体の構造と機能及び心身の発達					
	解剖学	30			30	2
	生理学	30			30	2
	臨床心理学	30			30	2
	保育学 I	15			15	1
	保育学 II	15			15	1
	(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
	病理学		15		15	1
	眼科薬理学		30		30	1
	内科学		15		15	1
	神経内科学		15		15	1
	小児科学		15		15	1
	精神医学		15		15	1
	公衆衛生学		15		15	1
	看護学	20			20	1
	(3) 視覚機能の基礎と検査機器					
	視器の解剖・生理学	30			30	1
	視覚生理学	30			30	1
	眼科総合医療論		30		30	1
	眼科臨床検査学		60		60	2
	総合視能学			120	120	4
	(4) 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念					
	医療関係法規と医療倫理		30		30	1
社会福祉	15			15	1	
医学概論	15			15	1	
眼科リハビリテーション	30			30	2	
専門分野	(1) 基礎視能矯正学					
	生理光学 I	30			30	1
	生理光学 II	30			30	1
	生理光学実習 I		30		30	1
	生理光学実習 II		60		60	2
	基礎視能矯正学 I	60			60	2
	基礎視能矯正学 II	60			60	2
	基礎視能矯正学 III	60			60	2
	視能矯正学研究法			60	60	2
	(2) 視能検査学					
	視能検査学 I	60			60	2
	視能検査学 II	60			60	2
	視能検査学 III		60		60	2
	視能検査学 IV		60		60	2
	視能検査学 V		60		60	2
	(3) 視能障害学					
	眼疾病学	30			30	1
	神経眼科		30		30	1
	弱視各論		15		15	1
	斜視各論		60		60	2
	眼振各論		15		15	1
	(4) 視能訓練学					
	視能訓練学実習		60		60	2
	視能訓練学 I		60		60	2
	視能訓練学 II		60		60	2
	視能訓練学 III		60		60	2
	ロービジョン学		30		30	2
(5) 臨地実習						
臨地実習			630	630	14	
各学年年間合計		920	900	810	2630	101
合計						

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門基礎分野		
科目名	総合視能学		担当講師	内田 昌樹 他		
対象学年	3 年	履修時数	120 時間	単位数	4 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	視能学、文光堂 現代の眼科学、医学書院 過去の国家試験問題 等					
学習目標	国家試験に向けて、各分野での出題が多い基礎知識を定着させる。そして、自分の苦手分野を把握し、反復学習する事により苦手分野を克服し、国家試験合格を目指す。					
成績評価の 方法と基準	筆記試験にて評価し、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし59点以下を不可とする。					
講義回数	学習内容					
第1回	ホルモンの機能を理解する。					
第2回	骨格筋、横紋筋、平滑筋を理解する。					
第3回	内臓の働きを理解する。					
第4回	自律神経系について理解する。					
第5回	角膜・水晶体の解剖を理解し、検査結果と疾患を理解する。					
第6回	ぶどう膜の解剖を理解し、検査結果と疾患を理解する。					
第7回	ぶどう膜疾患の検査結果と疾患を理解する。					
第8回	網膜の解剖を理解し、検査結果と疾患を理解する。					
第9回	緑内障のメカニズムを理解し、固有の検査結果を理解する。					
第10回	眼底写真と疾患を結びつける。					
第11回	全身疾患と関連する眼疾患を理解する。					
第12回	小児特有の眼疾患を理解する。					
第13回	前回までの範囲の国家試験問題を確認する。					
第14回	屈折異常の定義を理解し、明視域を理解する。					
第15回	調節力と明視域を理解する。					
第16回	屈折異常と焦線の関係を理解する。					
第17回	眼光学の暗記すべき数値を確認する。					
第18回	眼鏡・コンタクトレンズの特性を理解し、knappの法則を理解する。					
第19回	プリズムの合成の計算できる。					
第20回	バージェンスの法則、プレントイスの法則を利用した計算問題が解ける。					
第21回	過去の国家試験問題を利用し生理光学分野の復習する。					
第22回	視力検査の条件と検査方法を理解する。					
第23回	ランドルト環の大きさ、縞視力の計算を理解する。					
第24回	対数視力について理解する。					
第25回	視野検査と疾患の関係を理解する。					

第26回	電気生理検査と疾患の関係を理解する。
第27回	色覚検査の検査条件を理解する。
第28回	色覚異常について理解する。
第29回	暗順応検査について理解する。
第30回	電気生理検査原理と疾患を理解する。
第31回	過去の国家試験問題を利用し視覚生理分野の総括する。
第32回	眼薬理の作用機序について理解する。
第33回	薬物の副作用について理解する。
第34回	視能訓練士法を中心に医療関係法規について理解する。
第35回	視神経・視路の障害を理解する。
第36回	眼振について理解する。
第37回	眼振の治療法について理解する。
第38回	外眼筋の作用と眼球運動について理解する。
第39回	眼球運動に関係する法則について理解する。
第40回	輻湊、開散を理解しAC/Aの検査・計算ができる。
第41回	Panumの融像感覚圏について理解する。
第42回	複視、複像検査について理解する。
第43回	眼位定性検査の原理、方法、検査対象を理解する。
第44回	眼位定量検査の原理、方法、検査対象を理解する。
第45回	網膜対応検査の原理、方法、検査対象を理解する。
第46回	眼位検査の臨床問題が解ける。
第47回	網膜対応検査の臨床検査が解ける。
第48回	共同性斜視について理解する。(1)
第49回	共同性斜視について理解する。(2)
第50回	麻痺性斜視について理解する。
第51回	斜視特殊型について理解する。
第52回	共同性斜視の臨床問題が解ける。
第53回	麻痺性斜視の臨床問題が解ける。
第54回	斜視特殊型の臨床問題が解ける。
第55回	斜視訓練を理解し臨床問題が解ける。
第56回	弱視訓練を理解し臨床問題が解ける。
第57回	斜視手術を理解し、臨床問題が解ける。
第58回	ロービジョンの定義と視覚障害等級を理解する。
第59回	ロービジョンの光学的補助具と非光学的補助具を理解する。
第60回	ロービジョンの疾患別対応を理解する。

学科名	視能訓練士学科			科目区分	専門分野	
科目名	視能矯正学研究法			担当講師	内田 昌樹 他	
対象学年	3 年	履修時数	60 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・ 使用教材	各々の研究に必要な教科書、論文					
学習目標	各自担当教員と面談しながら、研究テーマを定め、それに沿って実験・調査・論文検索を行う。発表抄録を作成し、卒業研究発表会でプレゼンテーションする。					
成績評価の 方法と基準	発表抄録 (40%)、卒業研究発表 (60%) 100点満点で80点以上を優、70点以上は良、60点以上は可とし、59点以下は不可とする。					
研究の進め かた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主的に計画的に担当教員と面談しながら進めていく。</li> <li>・ 研究方法について理解する。</li> <li>・ 興味のあるキーワードから文献を検索できる。</li> <li>・ 研究テーマを絞り込むことができる。</li> <li>・ エビデンスに基づいた研究発表を行う。</li> <li>・ 実験等を行い発表に必要なデータを収集する。</li> <li>・ 実験および実験結果をまとめスライドを作成する。</li> <li>・ 発表抄録を作成する。</li> <li>・ 発表原稿を作成する。</li> </ul>					

## 令和 5 年度 講義計画 (シラバス)

学科名	視能訓練士学科		科目区分	専門分野		
科目名	臨地実習		担当講師	内田 昌樹		
対象学年	3 年	履修時数	630 時間	単位数	14 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・ 使用教材	特になし					
学習目標	<p>実際の医療現場で視能訓練士の役割を理解し、実習生として何が出来るか考え、行動できる。学内実習で学んだ視能検査が正確に出来る。病気を持つ患者様の苦しみ、苦労（身体的、精神的、心理的、社会的）を知る。チーム医療の一員としての責任と自覚を養う。視能訓練士として5年以上の臨床経験を持つ教員が実習指導を行う。</p>					
成績評価の 方法と基準	実習評価表の判定基準に基づく。					
実習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職への適性及びふさわしい態度に努める。</li> <li>・ 視能訓練士に必要な情報を収集し、検査・訓練を実践する。</li> <li>・ 簡潔明瞭で相手に伝わる記録・報告書をまとめることが出来る。</li> </ul>					